

II-1、2 図（賃金水準の現状の表とグラフについて）

この表は、今年度行った賃金実態調査の年齢と所定内賃金の額（毎月決まって支払われる基本給＋手当で、高卒男子・通勤手当を除く）と全国データ（厚生省「賃金センサス」2010年）との比較を表示している。

JR連合は、策定した中期政策労働ビジョン「2009～2013」において、「JR労働者にふさわしい賃金」として厚生労働省が実施する賃金センサスにおける「全ての産業の1,000人以上規模の会社の中で上位から25%目の賃金水準（第3四分位）」を上位目標賃金として設定

し、その到達に向けて取り組んでいる。また、毎年賃金実態調査を行い、実態を把握することとしている。

今年度行った賃金実態調査の表からは、新賃金制度において想定された若年層の賃金カーブの立ち上げが充実されてきたことがわかる。しかしながら、47歳以上の賃金が、JR連合が上位目標賃金を設定した額からは下回っており、特に賃金を減額された55歳以上の賃金は、全産業の平均額をも大きく下回っていることがわかる。したがって、JR西労組としては、55歳以降の在職条件の引上げが重要な課題であると考えている。

図II-1 年齢別の平均賃金とJR西日本の賃金、上位必要目標賃金とグラフ

年齢	*平均	*第3四分位	JR西労組	対平均	対第3四分位	年齢	*平均	*第3四分位	JR西労組	対平均	対第3四分位
18	1559	1715	1651	105.9	96.3	39	3430	3773			
19	1658	1824	1651	99.6	90.5	40	3500	3850			
20	1755	1931	1748	99.6	90.6	41	3568	3925			
21	1852	2037	1960	105.8	96.2	42	3634	3997			
22	1948	2143	2036	104.5	95.0	43	3697	4067			
23	2043	2247	2222	108.8	98.9	44	3759	4135			
24	2137	2351	2362	110.5	100.5	45	3818	4200			
25	2231	2454	2519	112.9	102.6	46	3875	4263			
26	2323	2555	2657	114.4	104	47	3930	4323	4206	107	97.3
27	2415	2657	2774	114.9	104.4	48	3982	4380	4293	107.8	98.0
28	2506	2757	2864	114.3	103.9	49	4033	4436	4372	108.4	98.6
29	2597	2857	3008	115.8	105.3	50	4081	4489	4405	107.9	98.1
30	2687	2956	3069	114.2	103.8	51	4127	4540	4378	106.1	96.4
31	2776	3054	3227	116.2	105.7	52	4171	4588	4382	105.1	95.5
32	2865	3152	3355	117.1	106.5	53	4212	4633	4435	105.3	95.7
33	2953	3248	3585	121.4	110.4	54	4252	4677	4389	103.2	93.8
34	3041	3345	3767	123.9	112.6	55	4289	4718	4147	96.7	87.9
35	3128	3441	3871	123.8	112.5	56	4324	4756	4071	94.2	85.6
36	3207	3528	3934	122.7	111.5	57	4357	4793	4084	93.7	85.2
37	3284	3612				58	4388	4827	4042	92.1	83.7
38	3358	3694				59	4416	4858	3821	86.5	78.7

※平均・第3四分位

厚生労働省が全国企業を対象に調査している「賃金センサス」（2010年度）における企業1,000人以上の所定内賃金（通勤手当除く）高卒男子のデータの比較。

第3四分位とは、上位から25%目の値（JR連合が定める「上位目標値」にあたる）

図II-2

